

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 10 】

チーム名		歩きやすい道		チーム人数：4人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.
1	田村 剛			
2	リチャード シルバー	京都で歩くのが好きです。		他の人を歩いてみるのを励ま す。
3	中村善治	歩いて再発見		とにかく歩こう。
4	竹内裕貴			

メインテーマ	京都の道が歩きやすくなる方法を考える	リーダー： 田村 剛
サブテーマ	歩きにくい道をピックアップする	サブリーダー：
サブテーマ	歩きやすい道をピックアップする	
事務局との連絡役：	田村 剛	
チームの連絡体制 ルールなど	携帯電話、あるいはメール	
その他		

## 議題概要

議題チーム No. 【10】：歩きやすい道

<p><b>1)背景や問題の把握</b> 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>車の通行に不安を抱きながら歩くのは嫌だ。 車も気持ちよく、自転車も気持ちよく、そして歩行者が最も気持ちよく通行できることが、「歩いて楽しい街」に繋がるのではないか。見るところが沢山あっても、きれいなところが沢山あっても、歩くのに負担を感じたら何も楽しくない、楽しさは激減する。 それぞれの問題はあるが、歩行者に重点を置いて「歩きやすい」をキーワードにした。</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>歩行者が周りの見渡したり、立ち止まったりを自由にできれば、その地域のことをよりよく知ることができる。楽しく歩くことができる。歩いて出かけることに対するネガティブなイメージが減り、歩く人が増えるかもしれない。歩行者が歩きやすい道であれば、車や自転車との関係も良好になるかもしれない。車の使用が減少するかもしれない。健康の増進。地域の小売店舗の利用が増加するかもしれない。たくさんの可能性がある。</p>
<p><b>2)最終目標</b> 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>歩くことに対するストレスが少ない道に 何かにおびえて歩かなくてよい道に</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>① 歩きにくい道の調査結果 ② 歩きやすい道の提示 ③ ①と②の比較→差異は何か→改善ができそうなところを探す ④ 改善対策地の選択</p>
<p><b>3)解決すべき課題</b>  &lt;易しい課題&gt;  &lt;難しい課題&gt;</p>	<p>・「歩きにくい道」を挙げる調査担当区域を決める ・調べることを決める ・調査をする ・100人委員会の方々にもお願いする</p> <p>「歩きにくい道」を「歩きやすい道」にしていくには、できることは何か。 「歩きにくい道」と「歩きやすい道」の違いを見つけることができれば、何らかの解決策が見つかるのではないか。</p>
<p><b>4)解決策</b> 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>可能であれば対象地域の人も巻き込んで、できることから少しずつ 要らないものを退けるなど、簡易なことで改善するところもあるかもしれない。</p>
<p><b>5)行動計画</b>  4月～9月</p>	
<p>その後</p>	